

食物アレルギーによる症状が起きたときの対応

ここまでを **5分以内**に

(判断が遅くなるほど危険性が高まる)

発見者

- 子どもから目を離さない
- 大声で**応援者を呼ぶ**
(近くの子どもに、他の職員を呼ぶように伝える)
- 意識状態の確認
- 症状の把握
 - かゆみ
 - おう吐
 - 全身状態
- 経過の確認
 - 食べたもの
 - 運動していたか
- エピペンや内服薬の処方の有無を確認
5分以内に

応援者A 「準備」

- 緊急時対応マニュアルをもって来る
- 学校生活管理指導表を確認し、もってくる
- エピペンをもって来る(処方されている子のみ)
- AEDをもって来る
- 内服薬をもって来る(処方されている子のみ)
- その他[飲料水・毛布・タオル]

応援者B 「連絡」

- 校長・教頭を呼ぶ
- 校内放送を利用して人を集める

管理職(校長・教頭)

- 応援者など様々な対応者への指示
- 必要に応じて主治医・校医への相談
- 経過の把握と記録

緊急性のある症状

【全身の症状】

- ぐったりしている
- 意識がもうろうとしている
- 尿や便を漏らす
- 脈が触れにくい 不規則
- 唇や爪が青白い

【呼吸器の症状】

- のどや胸が締めつけられる
- 声がかすれる
- 犬がほえるような咳
- 呼吸がしにくい
- 強い咳き込みが続く
- ゼーゼーとした呼吸

【消化器の症状】

- 持続する強いおなかの痛み(がまんできないほどの痛み)
- 繰り返し吐き続ける

★1つでもあてはまれば緊急性が高いと判断されます

応援者C 「児童生徒の管理」

- 周囲の児童生徒の管理
 - 落ち着かせる
 - 他の部屋へ移動できるのであれば、移動させる
 - 児童生徒から発生時の状況を聞く

応援者D 「記録」

- 記録をとる
 - 観察を開始した時刻
 - エピペンを使用した時刻
 - 内服薬を服用した時刻
 - 5分ごとの症状

緊急性なし → 安静にできる場所へ移動 → 経過観察(5分ごとにチェックを)
☆ 緊急性の高い症状が現れたときは、特に注意が必要

緊急性あり

- その場で安静にする(立たせたり、歩かせたりしない)
 -  仰向けで足を15~30cm高くする
 -  吐き気、おう吐がある場合 窒息を防ぐため顔を横に向ける
- エピペンを使用する
 - STEP 1 準備**
青色の安全キャップを外す

 - STEP 2 注射**
太ももの前外側に垂直になるように「カチッ」と音がするまで強く押しつけ、そのまま数秒待つ

 - STEP 3 確認**
注射後、オレンジ色のニードルカバーが伸びていることを確認する
 伸びた状態

自分できない場合は周りの人が打つ
＜ファイザー株式会社「エピペンの使い方 かんたんガイドブック」より＞
- 心肺停止状態に陥ったら、AEDを使用する
→ その場で、救急隊を待つ

応援者E 「連絡」

- 救急車を要請する(119番通報)
☆ **あわてず、ゆっくり、正確に情報を伝える**

- 救急です(食物アレルギーの症状であることを伝える)
- 学校名、住所、電話番号を伝える
- だれが、いつ、どうして、どうなったかを伝える
- エピペン処方や使用の有無を伝える
- 通報している人の名前と連絡先を伝える

※ 救急隊からその後の状態確認で電話がかかる場合がある。常につながるようにしておく。

- 救急車の誘導
 - ・ エピペンを渡す
 - ・ 打った場合は、誰が、何時何分に打ったか
 - ・ 救急隊連絡票を渡す
 - ・ 氏名、住所、生年月日、病歴、学校生活管理指導表など、正確に伝える

応援者F 「連絡」

- 保護者への連絡
 - 状況を正確に伝える(だれが、いつ、どうして、どうなった、今どうしている)

できるだけすみやかに、同時並行で行う

学校生活管理指導表等 について

アレルギー疾患の児童生徒への対応は、個々の児童生徒について症状等の特徴を正しく把握することが前提となります。その手段の1つとして、「学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）」があります。

※ 学校のアレルギー疾患に対応する取り組みガイドライン (財団法人 日本学校保健会) 学校生活管理指導表の項目の色分けにあわせて、掲載ページが色分けされています。

救急隊との連絡

救急車を要請したときには、「救急隊連絡票」を必ず救急隊に渡しましょう。

救急隊連絡票

学校 小牧市 0568-
救急要請した時間 (:)
連絡先 (:) ※ エドーとして1部を学校保管する。

フリガナ
氏名 生年月日 平成 年 月 日
住所
自宅電話
保護者名 住所 勤務先 (電話) 携帯電話
発症時刻 午前 : 午後 :
どこで
何をしていて
症状
JCSによる意識レベル
JCSによる意識レベル
1. 1. 目を開けず、呼びかけに反応しない
2. 2. 時、場所、人の認識が障害
3. 3. 自分の名前や生年月日がいえない
II 刺激をすれば反応する (刺激をやめると反応がなくなる)
10. 10. 首の硬いひきかたで目を閉じる
20. 20. 大声で叫ぶ、体を揺るなどが目を閉じる
30. 30. 痛み刺激から呼びかけを止めて目を閉じる
III 刺激をしても反応しない
100. 100. 痛み刺激に対し、払いのけるような動作をする
200. 200. 痛み刺激で少し手足を動かし、顔をしかめる
300. 300. 痛み刺激に反応しない
既往歴 アレルギー ない・ある ()
服用薬 最終薬事 時期

エピペンを使用したときの報告

学校管理下でエピペンを使用した場合は、次の報告書を提出する必要があります。

児童・生徒の事故発生速報

健康学習課長 職 平成 年 月 日
学校名 校長 連絡先

児童生徒の事故発生状況報告書

健康学習課長 職 平成 年 月 日
学校名 校長 連絡先

児童生徒の氏名 性別 学年
事故の時刻 発生時刻
発生場所
事故の内容
発生後の対応
その後の経過

(速報 様式8) (報告書 様式10)

小牧市の教職員のための

食物アレルギー緊急時対応マニュアル

小牧市教育委員会

食物アレルギーの症状が出やすい場面

- 学校給食
 - ・ アレルゲンを誤って口にしてしまうのはもちろんですが、準備中に、食材に触れることにも注意が必要です。
- 食物・食材を扱う活動（調理実習など）
 - ・ 小麦粘土を使った活動、牛乳パック・プリンカップなどのリサイクル体験、豆まきなどの活動を行う場合は、注意が必要です。
- 宿泊を伴う活動
 - ・ 修学旅行や野外活動など、普段の生活では考えられないことが起きる可能性は高くなります。特に、食事の内容や提供可能なアレルギー対応食を確認する必要があります。
- 食後の運動
 - ・ 運動によって、食物アレルギーが誘発されます。昼休みや体育の授業などに発症するケースがあります。1時間目や5時間目の体育では注意が必要です。

食物によるアレルギーの症状

- <全身の症状>
 - 意識がなくなる
 - 元気がなくなる
 - ぐったりする
- <呼吸器の症状>
 - のどが締めつけられる感じ
 - 声がかすれる
 - 呼吸がしづらい
 - ゼーゼー、ヒューヒュー
 - 咳込み
 - 犬がほえるような咳
- <消化器の症状>
 - 吐き気
 - おう吐
 - 腹痛
 - 下痢
- <皮膚の症状>
 - 皮膚の赤み
 - じんましん
 - かゆみ
 - むくみ
- <目の症状>
 - 白目が赤くなる
 - 白目がブヨブヨになる
 - 目がかゆくくなる
 - まぶたの腫れ
 - 涙が止まらない
- <鼻の症状>
 - くしゃみ
 - 鼻水
 - 鼻づまり
- <口やのどの症状>
 - の中が変な感じ
 - の中が腫れる
 - くちびるが腫れる
 - 舌の変な感じ
 - 舌が腫れる
 - のどのかゆみ
 - イガイガ感

☆ 普段から、全教職員での講習・訓練を積んでおくことが大切です ☆